

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(上益城郡)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	上益城郡	御船町辺田見	若宮神社通し物	わかみやじんじゃとおしもん			若宮神社	氏子や園児らが七五調の古謡を歌いながら、みこしを引いて町中心部を巡った。約200年前、神社の横を流れる御船川の氾濫で社殿が流失した際、下流で大ナマスがご神体を救い、氏子たちが迎えに行ったのが由来と伝えられる。【2011.10.10読売】若宮神社秋季大祭に奉納【2001】				
2	上益城郡	御船町上野・古閑迫	上野古閑迫の虎舞	うえのこがさこのとらまい		8月31日	古閑迫大宮神社	古閑迫地区に伝わる伝統芸能「虎舞」が140周年を迎え、同神社で記念式典があった。実行委員会主催。虎舞は、用水路「嘉永井手」の開通に伴う住民の高台移転後、取り残された同神社の移転費用を集めるため、1868年ごろに始めたといわれる。先の大戦前後にいったん途絶えたが、1960年ごろ住民が復活させ、現在は住民による保存会が継承している。【2008.9.1熊日】獅子舞に類似する芸能。獅子の代わりに虎が舞う。【2001】				
3	上益城郡	嘉島町下六嘉	六嘉の獅子舞	ろっかのししまい	熊本県無形民俗文化財 昭和36年6月26日	10月17日	六嘉神社	六嘉神社の祭礼に五穀豊穡の祈願をこめて奉納される獅子舞。加藤清正が朝鮮の役(文禄・慶長の役=朝鮮では壬辰の役という)で、猛獣狩りを催した際に獅子頭を作り猛獣を脅嚇したことから始められたといわれている。全体は、(1)2人立の雌雄の獅子が登場する「デハ」、(2)弁髪・陣羽織姿の棒使い(4人・庄林流の棒という)、釣子(14人)が笛(9人)、太鼓(5人)の囃子にのって登場し、獅子と戦う形をとる「ツリ」、(3)雌雄の獅子が戯れる形を示す「モヤ」の3段から構成される。最後に獅子2頭が神社の境内に施設された櫓に上り、続いて雄獅子が高さ15mの杉柱を登りつめ、先端にくりつけられた牡丹花をちぎっては見物人に投げて終える。この花を拾うと縁起がよいといわれている。【熊本県ありのままHP2005】 加藤清正公の虎狩りが由来とされる六嘉の獅子舞。県の重要無形民俗文化財に指定されている。10月17日の六嘉神社の例祭に豊作を祈願して奉納されます。勇壮な獅子舞や牡丹の花が舞うフィナーレのはしご登りは圧巻です。【嘉島町HP/2005】 無病息災・家内安全を願う獅子舞。【2001】			【嘉島町役場】 〒861-3192 熊本県上益城郡嘉島町上島530番地 096-237-1111(代表) FAX096-237-2359	五穀豊穡 無病息災 家内安全
4	上益城郡	山都町(旧矢部町)目丸	目丸の棒踊り		矢部町無形民俗文化財 昭和49年1月14日	不定期		9月八朔祭および地元小学校の運動会で踊られる。【2001】				
5	上益城郡	山都町(旧蘇陽町)馬見原	火伏地藏祭り			8月第4土曜、日曜	馬見原町内	永禄年間に大火が続いたため、火伏地藏が祀られるようになったという。祭の初日は、町内に家庭用品を使った作り物が飾られ、大小三張りの太鼓をのせた山車が引き出され「火伏せ太鼓」が打ち鳴らされる。二日目は石の地藏を赤い御輿に乗せ若衆が町内を巡る。通りの各家では、地藏にバケツで水をかける。最後に五ヶ瀬川に飛びこみ若衆が水の掛け合いを行う。【1991】				
6	上益城郡	山都町大字大迫(旧蘇陽町)	年弥神社神楽			5月3日 9月30日	年弥神社	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽			
7	上益城郡	山都町今(旧蘇陽町)	今村観音神楽			1月14日	今地区の民家持ち回り	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽			
8	上益城郡	山都町長崎(旧蘇陽町)	下長崎岩戸神楽			11月3日	三皇神社	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
9	上益城郡	山都町二瀬本 (旧蘇陽町)	仁瀬本神社夜渡神楽	にせもとじんじゃよど かぐら	県指定無形民俗文化財	1月24日	二瀬本神社	同神楽保存会によって地区のコミュニティセンターで奉納された。神楽は四隅に竹とサカキを立て、和紙を切り抜いた十二支などの「彫り物(えりもの)」としめ縄で囲んだ舞台で、午後5時に恒例の神々を招く「神風(かみおろし)」の舞から始まった。熊本市など町外組を含む保存会員18人が太鼓や笛、鐘など独特の神楽囃子に合わせて、時に激しく時に優雅に神楽を舞った。午前零時までには十三座を奉納。同神楽を伝えたとされる宮崎県五ヶ瀬町の古戸野権現社の保存会も奉納した。中には「男女舞」などユーモラスな振りや、舞台から飛び出したり、太鼓の上で逆立ちしたりして振る舞い酒でほろ酔い気分の観客を大いに沸かした。以前は座元の民家で年番で行われ、夜を徹して朝まで全十三座を舞っていたが、過疎と高齢化、家屋構造の変化などで一時中断。数年前から午前零時までとして復活、振る舞い酒とおにぎり、山菜煮しめ、甘酒などでもてなす風習は引き継がれている。 【2009.1.26熊日】				
10	上益城郡	山都町高辻字大迫 (旧蘇陽町)	年弥神社御田植神事			5月3日	年弥神社	《構成》《特色》【1991】				
11	上益城郡	山都町橘 (旧蘇陽町)	団七踊り	だんしちおどり		不定		《構成》《特色》【1991】				
12	上益城郡	御船町上野	肥後神楽	ひごかぐら		10月15日	中原神社	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽			
13	上益城郡	御船町田代中野	中野神社秋季大祭奉納獅子舞			10月9日	中野阿蘇神社	《構成》《特色》【1991】	祭礼 (神社行事)			
14	上益城郡	益城町木山他	木山宮大神楽	きやまぐうおおかぐら		10月17日	木山宮	木山の神楽は、大正期に舞手である中川一郎氏が肥後神楽の良い部分を集成して完成させたといわれている。また嘉吉元年に木山氏が木山に居住、木山神宮を鎮守として阿蘇系の神楽を奉納していたともいわれている。詳しいことは不明だが、江戸期～明治中期まで神楽が続いていたのは確からしく、現在の神楽が途絶える以前のものを再現しているならば、江戸期から肥後神楽系統の神楽が木山神宮で舞われていたことがうかがえる。(公開期日:10月17日)【益城町役場HP/2006】 《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽			
15	上益城郡	益城町寺中他	津森宮神楽	つもりぐうかぐら		10月17日 10月29日	木崎神社 津森宮	津森神宮の甲斐氏によると、津森宮が天正期に焼ける以前におこなわれていたともいうが、津森宮所蔵の文書には、元和元(1615)年時点では何らかの神楽がおこなわれていたと記されているが、必ずしも肥後神楽すなわち現在の津森神楽と同じものとはいえない。現在、津森神楽は津森神宮の例祭及びオホシマツリの際に奉納される。(公開期日:10月29日～31日)。津森神宮は欽明天皇(630)年に神武天皇の霊が降り立った場所(三竹部落の丘陵地)に建てられ、宝治元(1247)年9月29日に源(藤原)頼嗣により現在の場所に移されたとされている。天正年間(1573～1591年)に小西行長によって堂社を焼かれ、社領は没収、旧記等もその際に散逸したといわれている。盛時は肥後の一宮として末社・楼門・玉垣・社家・社僧・鐘楼等が並び、八町四方(一町は約109m)に及んでいたとされる。【益城町役場HP/2006】 《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
16	上益城郡	益城町木崎宇御登	荒帆宮奉納獅子舞			10月17日	荒帆宮	木崎の獅子は、木崎荒帆宮秋祭時に奉納されている。木崎荒帆宮前で奉納後は各小字をまわり区長宅、新築の家、嫁をもらった家、子どもが生まれた家などから要請があれば舞われている。六嘉(嘉島町)より伝えられたといわれているが、その伝承時期等は不明である。戦後しばらく途絶えていたが、20年程前から「むらづくり」・「まちづくり」の一環として、再興され年々盛んになっている。(公開期日:10月17日)【益城町役場HP/2006】 《構成》《特色》【1991】	祭礼 (神社行事)			
17	上益城郡	益城町平田	平田の獅子舞	ひらたのししまい		10月30日 (12年に1度)	平田地区	《構成》獅子2頭(2人立)、花棒(男の子15人)、獅子釣り(女の子数人)、笛(6人)、太鼓(4人)。《特色》菊陽町、西原村の12地区持ちまわりでオホシサンまつりが行われる。平田地区で受ける年、送る年に行われる獅子舞。【1991】		益城町役場 096-286-3111		
18	上益城郡	益城町砥川	砥川神社奉納獅子舞	とかわじんじゃほうのうししまい		10月17日	砥川神社	秋季例大祭があり、獅子舞が昼と夜の2回奉納された。花火の火の粉の下で舞うことで知られ、境内は興奮と感動に包まれた。地区の3集落が持ち回りで奉納しており、今年の上砥川が担当した。クライマックスの夜の部では、雄獅子と雌獅子がユーモラスな動きで観衆を楽しませた後、さおに仕掛けた花火から降り注ぐ火の粉に突入。前方の舞手が肩車をされ、獅子頭を突き上げると、まるで「火の粉の滝」を上っているよう。迫力ある演舞に盛んな拍手が送られた。子供たちも、釣りになって獅子と戯れる舞を奉納。【2011.10.18熊日】 嘉島町の六嘉の獅子舞の系統とされ、約400年近い伝統があるとされる。地域の3集落が持ち回りで奉納しており、今年の中砥川・下鶴地区が担当。「玉釣り」「花棒」と呼ばれる幼児たちが獅子と戯れる場面では、子どもたちのあどけない仕草が観客を魅了。最後は、雄獅子と雌獅子が対になって舞を披露。ユーモラスな動きで観客を楽しませた後、5mほどの高さに仕掛けた花火から降り注ぐ火の粉を浴び、クライマックスを迎えた。【2012.10.22熊日】 砥川阿蘇神社に奉納されている。他に健軍神社(熊本市)にも奉納されている。由来書などの文書は存在しないが、3~400年前飢饉・疫病が流行った際、これを鎮めるために獅子を奉納したのが由来だとされる。現在は、五穀豊穡祈願のために奉納されている。獅子は「六嘉(嘉島町)の獅子」系統だといわれている。担当区があり、大字砥川を三区分し三年に一度当たるようにしている。(公開期日:10月17日)【益城町役場HP/2006】	祭礼 (神社行事)			
19	上益城郡	益城町福原南	南観音様獅子舞	みなみかんのんさまししまい		旧8月17日	紫運山明覚寺	旧暦8月17日の「観音さん」(紫雲山明覚寺)の命日に奉納されている。この獅子は「寺獅子」で、熊本県下でも珍しいものとされている。由来は、泉田喜八郎氏(文化10~明治27年)が川尻の十禅寺に習いに行ったらと伝えられている。(公開期日:旧暦8月17日)【益城町役場HP/2006】 《構成》《特色》【1991】				
20	上益城郡	甲佐町津志田	肥後大神楽	ひごおおかぐら		10月15日	津志田八幡宮	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽			
21	上益城郡	甲佐町仁田子	仁田子の雨乞いドラ			7月24日	甲佐町内	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
22	上益城郡	甲佐町船津	船津の雨乞いドラ			7月24日	甲佐町内	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
23	上益城郡	甲佐町宮内字坂谷	花棒踊り	はなぼうおどり		10月9日	甲佐神社	《構成》《特色》【1991】				
24	上益城郡		山出の獅子舞					《構成》《特色》【1991】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
25	上益城郡	甲佐町早川	北早川獅子舞	きたそうかわしまい		10月9日	厳島神社	厳島神社秋の大祭で奉納。獅子舞は、嘉島町の六嘉の獅子舞の流れをくむとされる。特徴だった高さ十数mのはしごの舞は、1960年頃途絶え、獅子舞も92年に県立劇場で披露された後、舞手の高齢化や後継者不足で途絶えた。しかし2007年、若者や子ども、保護者を中心に保存会を結成。古老に舞や囃子を学び、母親らも記録映像を見て横笛を練習、復活させた。舞は、棒使いや釣り子と呼ばれる子どもたちが雌雄2頭の獅子と戯れる様子を表現。【2012.10.11熊日】				
26	上益城郡	甲佐町寒野	東寒野亀踊り			不定		《構成》《特色》【1991】				
27	上益城郡	山都町(旧矢部町) 管字炭石	肥後神楽			11月27日 11月28日	熊野座神社	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽			
28	上益城郡	山都町(旧矢部町) 男成	男成神宮少女神楽	おなりじんぐうしょう じよかぐら		4月3日 4月4日	男成神社	旧矢部町男成地区の男成神社で毎年開催される少女神楽。「男成」という地名は、古くから阿蘇氏と関わりの深かった矢部で、阿蘇惟義が元服の儀式を行ったことに由来するという。神楽は代々男性によって行われてきたが、戦時中舞い手の成人男子がいなくなったことから少女が踊るようになり、現在のような形になった。舞は「浦安の舞」と言われるもので、扇の舞と鈴の舞からなり、4人の少女が拝殿で踊りを奉納する。頭を黄色や白の小菊がついたかんざしで飾り、ゆったりと舞う少女達のあでやかさは、厳肅な中にも華やかさが漂い、見る者を幽玄の世界へ引き込んでいく。また、神楽が終わると地域の人々によって踊りや芝居などが披露される。【山都町HP/2005】	【伝統芸能】 神楽		五穀豊穡 家内安全	
29	上益城郡	山都町上菅 (旧矢部町)	岩戸神楽	いわとかぐら		7月20日 11月20日 12月19日	白谷神社 白谷神社 下宮	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 神楽		山都町商工観光課 096-286-3111	
30	上益城郡	山都町(旧矢部町) 三ヶ	三ヶ部落の雨乞い太鼓			10月21日 旱魃の時	出雲神社 日雨田神社	《構成》《特色》【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
31	上益城郡	山都町(旧矢部町) 下市	通潤太鼓			9月第1土日	浜町内	《構成》《特色》【1991】				
32	上益城郡	山都町(旧矢部町) 上川井野	上川井野竜宮太鼓			不定		《構成》《特色》【1991】				
33	上益城郡	山都町(旧矢部町) 浜町	八朔祭り	はっさくまつり		9月第1土日	浜町内	《構成》《特色》【1991】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
34	上益城郡	山都町(旧清和村) 大平	清和村文楽人形芝居	せいわそんぶんらくにんぎょうしばい	熊本県指定無形文化財芸能 昭和54年10月8日	9月第2日	清和文楽館	宝暦(1751~64)のころ豊後竹田(現大分県)から伝えられた徳島系統の文楽人形で、語られる浄瑠璃と人形が演じる勧善懲悪、忠孝、義理、人情を学ぶ場として農村の人気を集め、嘉永(1848~54)のころには清和村一帯には数座の人形芝居があったといわれる。明治初期に一時衰退したが、大正12年(1923)ごろ復活、付近にあった旧座の人形や衣装道具などを集め、昭和3年(1928)の御大典奉祝の余興を目標として同好者が集まり、文楽人形芝居・大昭座を組織、浄瑠璃や人形遣いなどを練習した。戦後29年、組織を強化して保存会を結成し、後継者の育成、人形、衣装、舞台装置などの保存修理を行うとともに周辺村落の祭礼に出演するなど技術の向上に努めている。頭は約100個ある。清和文楽館では、人形の頭などの展示のほか、保存会による定期公演も行われ、実際に文楽の上演を観ることができる。【熊本県ありのままHP2005】 文楽は人形と浄瑠璃を組み合わせたお芝居。三味線の調べに合わせて、3人の遣い手により人形が操られます。人と人形が一体となっておりなす義理と人情の世界は見る人の心を打たずにいられません。清和文楽は山都町の清和地区で郷土芸能として受け継がれている農村芸能であり、江戸時代の末(嘉永年間1848~53)、村の農家の人達が阿波・淡路系旅回りの人形浄瑠璃一座から伝えられました。浄瑠璃の好きな村人たちが、農作業の合間に習い覚えて春の祈願、秋の願成のお祭りに自ら奉納を始めたのが興りと言われています。以来、豊作の願いと、日々の安らかな暮らしへの感謝の思いを込めながら、神社や、清和地区の田畑の中の特設舞台上で上演が行われてきました。明治の終わりには一時衰退しましたが、昭和に入り天皇即位をきっかけに復興。昭和29年に保存会が結成され、昭和32年村指定文化財(当時、清和村)に、昭和54年には熊本県重要無形文化財の指定をうけました。現在も清和文楽館をはじめ、各地で公演を行ない、多くの方々に楽しまれています。毎月第2、第4日曜日は定期公演があり、それ以外の日でも20名以上の団体は予約公演もできます。【山都町HP/2005】 《構成》《特色》【1991】		清和文楽館 0967-82-3001 上益城郡山都町大平152		
35	上益城郡	御船町七滝牧の原	獅子舞踊り	ししまいおどり				【1976】				
36	上益城郡	益城町福富地区	福富の太太鼓					150年ほど前から地区に伝わる太太鼓が半世紀ぶりに修復され、太鼓復活を機に保存会を設立、伝統芸能を継承。福富の太太鼓はケヤキの幹をくり抜いて作られ、面の直径0.8メートル、胴回り2.5メートル、長さ1.5メートル。幕末の文久年間の製作。雨乞い太鼓などの農耕神事に用いられたが戦後間もなく破損し、担い手も減少したため倉庫に眠ったままになっていた。【2007.1.10.熊日】				
37	上益城郡	山都町(旧蘇陽町)橋の椎屋地区	松出し(婚礼)	まつだし			婚礼会場	この地区に伝わる、結婚披露宴で家の発展や夫婦の幸せなどを願う婚礼行事。三年ものの松に竹と梅の枝を付けるなどした三段松を島台と呼ぶ木の台に乗せ高砂を置いて鯛2匹とともに新郎新婦の前に持って行く儀式。旧蘇陽町では、この地区だけに伝わる儀式。阿蘇地方山間部特有の儀式。【2005.11.14.熊日】				
38	上益城郡	山都町清和村	人形浄瑠璃芝居	にんぎょうじょうるしばい		3月6日	清和村文楽館	町内の小学6年生らを対象にした清和文楽の鑑賞会があり、総合学習の時間に清和村文楽館職員の指導で練習してきた清和小6年生が卒業記念に披露。【2012.3.7熊日】	【伝統芸能】 風流芸			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
39	上益城郡	山都町二瀬本	夜渡神楽	よどかぐら		1月19日	仁瀬本神社 二瀬本地区コミュニ ティセンター	「彫り物」と呼ばれる十二支などをかたどった切り紙やサカキが飾られた舞台が用意され、午後6時には神々を招く「神風(かみおろし)」で幕開け。20～70代までの会員らが全33座のうち6座を熱演。客席に飛び出し、太鼓の上で逆立ちする「八鉢」も披露。駆けつけた古戸野神社(宮崎県五ヶ瀬町)の神楽保存会が2座を披露。同神楽は途絶えていたが1785年に古戸野神社から伝えられ復活したとされる。座元の民家で夜を徹して舞われていたが、高齢化や住宅事情の変化などで最近では午前0時までコミュニティセンターで実施している。【2013.1.21熊日】	【伝統芸能】 神楽	仁瀬本神社 神楽保存会 田上義廣会 長		
40	上益城郡	山都町清和	楽楽楽まつり	らくらくらまつり		12月2日	清和文楽館	文楽、神楽、田楽の3つの楽を通じて、熊本と宮崎の伝統芸能や食事を楽しんでもらおうと同館が開いている。高千穂の夜神楽保存会が4演目を熱演。昼食の田楽の後は、清和文楽人形芝居保存会が「壺坂壺験記」を上演。【2012.12.5熊日】		清和文楽館		
41	上益城郡	御船町木倉足水地区	足水の獅子舞	たるみずのししまい		11月23日	木倉小学校	「第20回ふるさとふれあい木倉まつり」で19年ぶりに披露。同獅子舞の始まりは不明だが、北木倉の四宮神社の大祭などで奉納されていたという。1950年代後半にいったん途絶えたが、93年の「第1回ふるさとまつり」で再び披露。同まつりは今年20回目の節目となり、地域住民の強い要望で実現した。雄獅子と雌獅子が一对になって舞う「御祭礼」と、豊穰を願う舞の2種類を奉納。【2012.11.24熊日】			五穀豊穣	
42	上益城郡	益城町津森	お法使まつり	おほしまつり		10月30日	津森神宮	700年以上続くといわれる。担ぎ手が豪快にみこしを振り投げるのが見どころ。祭神は益城町と西原村、菊陽町の12地区の「御仮屋」を1年ごとに遷座。次の地区に引き渡す際、みこしを手荒く扱うのが習わし。【2012.10.31熊日】				
43	上益城郡	山都町	薪文楽	たきぎぶんらく		10月13日	大川阿蘇神社 農村舞台	かがり火をたいた幻想的な雰囲気の中で清和文楽を楽しむ薪文楽。清和文楽人形芝居保存会が、源平合戦の一場面を描く「一谷ふたば軍記組討の段」など3演目を熱演。清和文楽は江戸時代末に伝わり、昭和40年代まで奉納芝居として神社で演じられた。住民は弁当を持ち寄り、芝居を楽しんでいたという。薪文楽は、境内の野舞台で奉納していた姿を清和文楽の里協会が毎年開いている。観客らは舞台前に設けられた升席で重箱に用意された郷土料理やかっぱ酒を味わい、文楽を堪能した。【2012.10.16熊日】				
44	上益城郡	甲佐町豊内	坂谷太鼓舞(ボシドラ)	さかたにたいこまい		5月27日	甲佐小	甲佐小の児童らが、250年以上の伝統があるとされる同町本坂谷の雨乞い踊りを運動会で披露する。統合した宮内小から4年前に継承。踊りは八代市東陽町川俣から同地区に伝えられたとされ、住民によって継承されてきた。しかし、人口減少にともない踊り手の確保が難しくなったため、1986年から宮内小の児童らが踊るようになった。2009年春の甲佐小との統合後は、同小が毎年、運動会の演舞として披露している。本来は、笛、三味線などのお囃子があるが、同小での踊りは太鼓のみを使用。太鼓は直径、胴の長さとともに約1mあり、1人が太鼓に乗り、全員が紅白の房が付いた長さ約40cmの棒を両手に持ち、太鼓のリズムと「ヤッシーヤッシーヤッシー」などの掛け声で警戒に踊る。【2012.5.25熊日】				
45	上益城郡	山都町大平	清和村文楽人形芝居「阿蘇の鼎灯」	あそのていとう		4月20日	清和文楽館	上益城郡山都町の合併記念事業として創作、公演された清和文楽人形芝居「阿蘇の鼎灯」の地元初公演が同町大平の清和文楽館で行われた。「阿蘇の鼎灯」は、中世に山都町一帯を支配していた豪族、阿蘇家が島津勢の侵攻に居城の浜の館を離れた「目丸落ち」など、地元の歴史物語を二幕三場で上演。原作・脚本は前町立図書館長の前田和興さん、曲は同町出身の村屋五司郎さん(本名・豊田司郎)が受け持ち、住民の盛り上げ隊が人形遣いを手伝うなど町民が公演に協力。2月に熊本市の県立劇場で行われた初公演は好評だった。同日の公演を見た町民は「分かりやすい」「物語としてまとまっている」など好意的に受けとめ、「清和文楽は山都町民のものになった」の声も。郷土史に詳しい人の中には、史料がほぼ存在しない中で歴史解釈に疑問を述べる人もあった。【2008.4.22熊日】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
46	上益城郡	御船町田代北田代地区	獅子舞	ししまい		10月27日	田代西武福祉センター	御船町上野の七滝中央小児童が、同町田代の北田代ふるさと祭り(美緑のむら祭り)で、北田代地区が起源の獅子舞を披露。同地区の獅子舞は既に途絶えており、お年寄りらは「お獅子さんの里帰り」と喜んでた。獅子舞は200年ほど前、疫病を鎮めるため嘉島町の六嘉獅子舞を習って始まったとされるが、1970年前後に途絶えたという。92年ごろ、田代西部小児童が舞っていた獅子舞を復活させた。4年生の指導で3年生が踊り、継承している。伝わっているのは、童子が眠っている2頭の獅子を起す場面だけだが、児童は起源や伝統などについて学びながら練習を重ねているという。【2013.10.28熊日】				
47	上益城郡	甲佐町西寒野	住民劇団「西寒野夢座」にわか	じゅうみんげきだんにしさまのゆめざにわか		9月23日	大祓神社	大祓(だいぎ)神社宮祭りがあり、地域住民でつくる劇団のにわか披露された。境内には、地元住民による露店も並んだ。西寒野は約150世帯・約400人。同座は2000年、マンネリ化した祭りに新風を吹き込もうと結成され、初公演した。脚本・演出を担当する岩井真一さんを中心に、役者から舞台設置まですべてが同地区に住む住民の手作り。今年の出し物は「磨けば輝く」と題した江戸時代の創作にわか、全5幕。約40分で、ごみとして出した仏像や茶碗が何十両、何百両となって正直者に還ってくるというストーリー。出演者は、スタッフを含め、20～60代の13人で、会社員、主婦、農業など職業もさまざま。【2013.9.25熊日】				
48	上益城郡	御船町木倉	四宮神社神楽			10月9日	四宮神社	五穀豊穡を祈る同神社の神楽は94年、約40年ぶりに地元の保存会が復活させた。今年は小中高校生を含む20人が太鼓や笛の音に合わせ、厳かな舞を披露。【2009.10.9熊日】				五穀豊穡
49	上益城郡	山都町白石地区	白石神楽			11月26日	馬見原西部地区交流会館	「お天道さん神楽まつり」で10座を披露、20代の新会員兄弟も緊張の初舞台に立った。白石神楽は、白石地区の住民が明治中期、宮崎県五ヶ瀬町に伝わる神楽を持ち帰ったのに由来するとされる。後継者不足で途切れていたものを復活させるため、2005年に保存会を結成。昨年の祭りまでに全33座を完全復活させている。舞手は30～60代の男性9人だったが、20代の兄弟2名が参加。週1回の練習と直前の集中稽古で本番に臨んだ。【2011.11.28熊日】				
50	上益城郡	甲佐町白旗山出地区	戦勝獅子舞			10月9日	山出神社(大武宮)	同集落で代々受け継がれている戦勝獅子舞が奉納され、多くの地域住民を楽しませた。この獅子舞は、1581年12月、御船城主の甲斐宗運が、相良軍に勝利したことを祝って奉納されたと伝えられており、既に400年以上続いている。参道の提灯に火が灯ると、大太鼓と小太鼓に合わせて一連の舞が始まる。雄獅子が登場し、勇壮な舞を奉納。途中、2匹の猿が曲芸などを披露し、最後に子ども獅子が登場。親子で重なり2段獅子となった獅子舞は最高潮となった。獅子舞が終わると、同地域には五穀豊穡と無病息災が訪れるといわれている。【2011.10.22西日本】				五穀豊穡 無病息災
51	上益城郡	嘉島町北甘木地区	ひよつとこ踊り	ひよつとこおどり		11月3日	北甘木公民館	67～83歳の住民17人が「北甘木ひよつとこ踊り愛好会」を結成、町内のイベントで踊りを披露している。【2010.9.26熊日】				